

第4回 2024.2.4 しゃべくりエイト

ふたば 8 町村の復興とその先へ
～双葉郡の現実と夢と希望～



当日参加 OK!

開催日時

2024 2/4 日曜 13:30～16:00

定員

50名

会場

大熊町交流施設
Linkる大熊 多目的ホール

(〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大字大川原1207-1)

参加対象

双葉郡内の地域住民及び双葉郡内への帰還や移住に関心のある方々

TIME TABLE

プロローグ (双葉郡8町村を象徴するイベントの紹介)

13:30 開会

13:35 第1部 双葉郡の今 (ふたばエイト)

14:30 第2部 4コミュニティによる対談
(熊女 × 浪女 × 富女 × 双葉町女子)

15:40 エンディング

15:50 閉会



今回のしゃべくりエイトは?

「しゃべくりエイト」は、双葉郡の復興や暮らしをテーマにした情報発信イベント。

第一部では、双葉郡で行われたイベントや中間貯蔵施設の映像をもとに「双葉郡の今」をまちづくり会社の職員が深堀トーク。第二部では、発足したばかりの女性だけのコミュニティ「熊女」×「浪女」×「富女」×「双葉町女子」による対談が実現!女性目線で双葉郡の魅力などをテーマに意見交換を行います。

申込方法

記載のQRコードより
お申し込みください。



ふたばエイト(双葉郡まちづくり協議会)って何?

福島第一原子力発電所に近い福島県双葉郡の各まちづくり会社からなる協議会。
8町村の連携と情報共有および関係・交流人口の拡大を目的に活動しています。



共催/一般社団法人 ふくしま連携復興センター・ふたばエイト(双葉郡まちづくり協議会)

※本事業は「復興庁被災者支援コーディネート事業」の一環で開催します。

【開催日時・場所】

日時：令和6年2月4日（日）13：30～16：00

場所：大熊町交流施設 link 大熊 多目的ホール

（〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平 1207-1）

【開催方法】

現地会場での開催

【目 的】

2022年8月30日に双葉町の帰還困難区域が一部避難指示解除となったことで、震災以来11年ぶりに全町村で人が住むことが可能になった双葉郡8町村。2022年9月には、創造的復興の中核拠点とされる福島国際研究教育機構が浪江町に設置されることが決まり、徐々にではあるが8町村の復興の姿が見え始めてきている。

一方で中間貯蔵施設にたまる除染土壌や廃棄物の問題、汚染処理水の海洋放出の問題など風評被害を生みかねない厳しい現実もあり、復興は道半ばといえる。

双葉郡では、各まちづくり会社からなる「ふたばエイト」（双葉郡まちづくり協議会）が設立され、各町村の連携と情報共有を図り、さらに関係人口・交流人口の拡大を目的として、各町村の魅力発信を行なっている。

そのような中、新型コロナウイルス感染が収束に向かい、徐々にではあるが、現地を訪れる人も増えてきており、各町村が本格的に移住定住支援事業に着手している今だからこそ、双葉8町村のまちづくり会社の職員やこの地で生活している人々が「住民目線」で双葉郡の現実と将来への夢と希望を語ることに意義があると考えます。

【登壇者】

○ふたばエイト（双葉郡まちづくり協議会）

- ・西出 貞善（一般社団法人ならはみらい）
- ・大和田 瑠奈（一般社団法人まちづくりなみえ）
- ・豊岡 つかさ（一般社団法人葛尾むらづくり公社）
- ・田口 隼人（一般社団法人ふたばプロジェクト）
- ・片岡 翔（一般社団法人おおくままちづくり公社）
- ・辺見 珠美（一般社団法人とみおかプラス）
- ・渡辺 柚香（一般社団法人かわうちラボ）
- ・幸森 千尋（株式会社広野町復興公社）

○熊女

- ・近藤 佳穂
- ・南場 優生海

○浪女

- ・小林 奈保子

▼双葉郡の今

双葉郡が直面する現実を発信するという目的のもと、中間貯蔵施設内やその周辺の様子を撮影した映像を上映。大熊、浪江、広野の登壇者がそれぞれ、資料や映像をもとに説明した。

大熊の片岡氏は震災で閉業となった「水産種苗研究所・栽培漁業センター」を過去・現在の写真などを用いて紹介した。原発から1キロ南に位置している当施設は発電所からの温水を利用しカレイ・ヒラメの稚魚を育て研究を行っていたが、震災の津波に飲み込まれ施設が壊滅。現在は新地町に研究拠点を移転し、研究が継続されているとのこと。

片岡氏は小学6年生のとき職業体験で行ったことがあり、思い出の場所であると紹介した。

浪江町の大和田氏は、施設内の除去土壌の映像や実際に線量計の数値を示し、安全性を示した。除去土壌の付近での腰のあたりの線量は0.45マイクロシーベルトであり、累計被ばく量は2時間で1.031マイクロシーベルトであるとのこと。「この数値は胸のX線検査の60分の1の被ばく量であり、安全性を目で確認できました」と説明した。また、コンクリートで固めるよりも土で遮蔽した方が線量を抑えられるとの話や、土壌は飯館の長泥地区の再生利用実証実験に活用できる等、「環境に配慮している印象を受けた」と説明した。

広野町の幸森氏は中間貯蔵施設内に「取り残されているもの」に着目し撮影した映像を紹介した。施設内に綺麗なままの残されている民家や津波で半分が失われた公民館、避難の慌ただしさが分かる老人ホームとその周辺に残されている職員の自家用車、また今は閉鎖した大熊町のパークゴルフ場を紹介した。閉鎖したパークゴルフ場の利用者は現在、「大熊同郷会」と称し、広野町振興公社が管理運営している広野町二ツ沼総合公園のパークゴルフ場を毎週利用してくれている。幸森氏は「大熊同郷会」がパークゴルフを行う姿から「震災前、利用者と賑わう様子が目に浮かぶ」とコメントした。また取り残された民家は立ち入り禁止のゲートを見ることでようやくだれも住んでいないことが分かるほど綺麗な状態で残されているとコメントし、改めて原発事故がもたらした悲慘さを紹介した。

その後、双葉町の田口氏より「施設を見学して率直にどう感じたか」との質問があり、大熊の片岡氏は、「施設内は手つかずの場所が多く残されており、自身が大熊町出身ということもあり、懐かしさを感じる場所が多い」と回答した。



「第4回しゃべくりエイト 実施報告書」



▼エンディング

双葉郡の子育て環境の紹介ということで、広野町にある「ふたば未来学園」と大熊町に2023年に開校した「学び舎ゆめの森」を取り上げ、ふたば未来学園からはバドミントン部員に行ったインタビュー動画を上映し、学び舎ゆめの森からは移住者親子、帰還者親子それぞれに行ったインタビュー動画を上映した。

ファシリは学び舎ゆめの森と普段から関わりがあり、「転校生も増えてきており、先生に支えられながら自分のやりたいことに興味があることに向かって学んでいる姿を見て嬉しいなと思っている。」とコメントした。

